

国語 - 14 (第4学年) ファンタジーを読み, 感想を述べ合う事例

【学習活動の概要】

1 単元名 ファンタジーを楽しもう		
2 単元の目標 ファンタジーのシリーズを, 叙述を基に想像して読んだり, 感想を発表し合って感じ方について違いのあることに気付いたりすることができる。		
3 評価規準 【国語への関心・意欲・態度】 ・ファンタジーのシリーズを読んで, 作品の好きなところや心がひかれるところを見付けながら感想を述べようとしている。 【読む能力】 ・シリーズを通して描かれた登場人物の性格や気持ちの変化などを, 物語の展開に注意しながら叙述を基に想像して読んでいる。 ・ファンタジーを読んだ感想を, どの叙述に基づいているか, 自分の経験などとどう関連しているのかを明らかにしながら発表し合い, 一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。 【言語についての知識・理解・技能】 ・「漢字仮名交じり文」という日本語の表記の仕方に気を付けて, 文や文章を読んでいる。		
4 教材 ファンタジーのシリーズ作品『車のいろは空のいろ』(あまんきみこ作)		
5 主な学習活動(単元の指導計画(全8時間))		
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次	ファンタジーのシリーズ『車のいろは空のいろ』所収の作品の読み聞かせを聞き, おもしろいところ, 不思議だと思ったところを述べ合う。 ファンタジーのシリーズ作品から自分のお気に入りを見付け, 感想を発表し合おうという学習課題を設定する。 特設した学級文庫を活用し, 『車のいろは空のいろ』所収の作品の並行読書始める。	・読み聞かせを聞いて感じた, おもしろいところ, 不思議だなど思ったところ, 何となく気になるところなど, 自分の心がひかれるところを意識しながらシリーズ作品を読むようにする。
第二次	『車のいろは空のいろ』所収の「白いぼうし」について, 読み聞かせを聞くとともに, 以下のような点から繰り返し読みながら, 自分の感想をまとめる。 物語の展開を確かめながら 心がひかれるところを確かめながら なぜそこが好きなのか, 心がひかれるのかを考えながら 互いの好きな描写やその解釈について友達と交流しながら	・物語の展開(登場人物・発端 事件 結末)をワークシートにまとめ, 好きなところや心がひかれるところがどこなのかを確かめながら読めるようにする。 ・なぜそこが好きなのか, 心がひかれるのかについて, 場面の移り変わりや登場人物の性格, 気持ちの変化, 情景描写などを手掛かりにして読む。 「白いぼうし」の気になる描写とシリーズの他の作品の描写, 表紙裏に描かれた地図や前書きなどを関連付けて読む。 友達の好きなところや気になるところはどこかを情報交換しながら読む。
第三次	並行読書してきたシリーズ作品の中から作品を一つ選び, 第二次で行ってきた読み方を用いながら, 作品の好きなところ, 心がひかれるところとそのわけをメモにまとめる。 同じ作品を選んだ人と感想を述べ合ったり, 異なる作品を選んだ人と感想を述べ合ったりして互いの感じ方を交流し, 学習のまとめをする。	といったことを通して, 理由を考えながら読み, 感想を述べ合うようにする。

シリーズ作品の並行読書



【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・国語の第3学年及び第4学年「C 読むこと」の指導事項「ウ 場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ちの変化，情景などについて，叙述を基に想像して読むこと。」と指導事項「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」とを取り上げて指導するものである。

その際，「C 読むこと」の言語活動例「ア 物語や詩を読み，感想を述べ合うこと。」を具体化し，ファンタジーのシリーズ作品を読んで感想を述べ合うことを通して指導することにより，指導の効果を高めた事例である。

【言語活動の充実の工夫】

1 「ファンタジーのシリーズ」がもつ特長を生かす

本事例では，指導のねらいを実現するために，ファンタジーのシリーズを読むという言語活動を位置付けている。この言語活動は，次のような意図で設定している。

ファンタジーは物語のジャンルの一つであるが，虚構性が高く，解釈の幅が広いという特徴がある。そのため，一人一人の感じ方について違いのあることに気付かせるのにふさわしい教材選定ができる。

シリーズとして刊行されている作品には，登場人物や状況設定，描写の特徴（本事例では，淡い情調で描かれる色やにおいなど）といった，共通した特徴をもつものが多い。シリーズ作品を重ねて読んでいくことで，そうした特徴に気付くことができる。

2 「叙述を基に想像して読むこと」を柔軟にとらえて学習活動を組織化する

物語は一連のストーリーによって描かれている。日常の読書においては，一つの場面だけをその前後と切り離して読むのではなく，相互に関連付けたり，さらにはシリーズの他の作品と結び付けて解釈したりする。また，叙述だけから解釈するのではなく，自分の体験や他の読者の解釈と叙述とを関連付けて読むことで一層想像が広がることも多い。

すなわち，「叙述を基に想像して読む」ことは，決して一つの場面の叙述だけを対象にした狭い読みを意味するのではない。例えば，場面の移り変わりに注意して読むために，物語の複数の場面を比較して読むことや，主人公の性格に着目して読むために，シリーズの他の作品の叙述と関連付けて読むことなども大切なものとなる。

そうした効果的な指導を構想するためには，どんな叙述に着目して解釈させたいのか，そのために叙述の範囲をどう考えればよいのか，それらの叙述を何と関連付けてどんな方法で読むのかを明らかにすることが求められる。その際，例えば以下のような指導事項に示す内容を手掛かりにすることが有効である。

	着目する叙述	叙述の範囲	叙述をどんな方法で読むか
第1・2学年	ウ 場面の様子 ウ 登場人物の行動	ウ 場面の様子 カ 本や文章を選んで	エ 大事な言葉や文を書き抜く オ 文章の内容と自分の経験とを結び付け
第3・4学年	ウ 場面の移り変わり ウ 登場人物の性格 ウ 気持ちの変化 ウ 情景	ア 内容の中心 ウ 場面の移り変わり カ いろいろな本や文章	オ 発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付く
第5・6学年	エ 登場人物の相互関係 エ 心情 エ 場面についての描写	イ 本や文章を比べて カ 複数の本や文章などを選んで比べて	イ 効果的な読み方を工夫 カ 複数の本や文章などを選んで比べて

本事例においては，場面の移り変わりや登場人物の性格，気持ちの変化，情景描写などに着目して，シリーズ作品を相互に関連付けたり，友達の読みと交流しながら想像を広げて読んだりすることを位置付けている。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類： ， ，